

## 京都市小学校教科書選定委員会 答申

外国語科について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

### 選定の観点

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。
- 2 適切な場面設定のもと、既習事項等を活用しながら、言語活動を行うための思考力・判断力・表現力等を育成する工夫・配慮がされていること。
- 3 相手や他者の理解に配慮するなど、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う工夫がされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮がされていること。
- 4 5領域別の目標と学習内容を効果的に関連付ける工夫がされていること。
- 5 外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、日本語と日本文化の豊かさに気付く教材や活動が適切に取り上げられていること。
- 6 単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等との関連、また他校種等との接続について配慮がされていること。
- 7 基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。
- 8 表記や表現について、文章や挿絵、写真等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

## 外国語科

### 調査研究の結果の概要

#### ■東京書籍「NEW HORIZON Elementary」

音声・動画の視聴後に設定されたリスニングにより各単元での新出表現の理解を深めることができ、随所に設定された「Small Talk」により既習表現を振り返る機会が保障されている。また、Picture dictionary が別冊として用意され、その活用にあたっては、参照するページが複数明示されており、主体的に知識・技能の確実な習得を図るための工夫・配慮が優れている。

単元導入時に示された学習到達目標や紙面構成から、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等が明確に設定され、児童が見通しをもちやすい。また、発表の場面では、発表前に自分が工夫したいことを考えて整理したり、発表の順番や語順を意識したりできるようになっている。さらに、付け足しに使える表現例や反応例等を登場人物のイラストと共に英語表記で示してあることで、話し手や聞き手が思考して活用でき、児童が情報を整理して発表するための工夫が優れている。

外国の文化等に関する記述が充実し、外国と自分の生活とを比較する場面が設けられるなど、物事の捉え方や考え方の多様性に気付く工夫がなされ優れている。また、「話すこと」のウォームアップとして、教科書の登場人物との画面上での模擬会話をはじめ、言語活動の準備に役立つ会話練習や、資料が豊富に用意されているなど、個別最適な学びを進めやすいようよく工夫されている。

学習した表現が実社会や実生活のどのような場面で活用できるかを考えられるよう工夫されており、単元を通して言語活動に取り組める構成になっている。5領域の目標がバランスよく、かつ適切な時期に育成されるよう工夫されている。また、聞いたり話したりする活動を踏まえ、語句や表現を書き写したり読んだりする活動が順を追って設定されている。さらに、4線の使い方や音に着目して習得させることが継続的に設定されており優れている。

Over the Horizon での「文化探検」「世界探検」「日本探検」「ことば探検」「物語探検」という多様な切り口で外国と日本の文化や言語に対する理解を深めることができる工夫が特に優れている。

中学年の内容を的確に受け止められるような5年生冒頭や別冊辞書、中学校への学習へと効果的につなげるための6年生巻末ページの設定など、円滑な接続への配慮がみられる。また、別冊「My Picture Dictionary」では、児童が本当に伝えたい内容とそのため表現を探せるように活動やジャンルが関連づけられているうえ、自分で調べたマイ単語を記入できるなど、児童の自学自習や、中学校以降での復習に活用できるよう、よく工夫されている。

#### ■開隆堂出版「Junior Sunshine」

単元終末の活動例がアニメーションで単元はじめに紹介されており、学習の流れがイメージしやすい。ゴールまでの道筋が一目で分かる単元チャートもあり、学習の見通しが持てるようよく工夫されている。また、巻末には、ユニットごとのCAN-DO リストがあり、何ができるようになったのが児童自身で分析できるよう配慮されている。

発表の場面では、発表の目的が明示され、何のために工夫をするのかが把握しやすい。また、発表内容を整理した後に発表する流れになっており、何をどの順番で発表するのか思考できるようよく工夫されている。一方で、既習・新出表現等を使い、その場でやり取りする活動では、すでに完成している発表原稿が多く示されているため、思考しながら自分の伝えたいことを表現する力を育むための工夫が不十分である。

5年生では日本（自分の住む町）の素敵なおところについて、6年生では世界（行きたい国や紹介したい国）について、考えたり友達と伝え合ったりする活動が設定されており、多様な捉え方や考え方に結びつく工夫がなされている。また、「Let's Watch and Think」では、世界の同年代の子供たちの様子を動画視聴でき、それらの発話内容をその後の自分自身のやり取りや紹介に生かすことができるよう工夫されている。

各単元とも、チャンツやゲーム、視聴教材で言語材料を聞いたり話したりする活動を繰り返し、その後の言語活動につながるよう工夫されている。また、聞いたり話したりする活動を踏まえ、語句や表現を書き写したり読んだりする活動が順を追って設定されているとともに、多くの単元において「やり取り」をした後、単元末に「発表」を設定しているなど、工夫されている。

単元の中や「Around the World」において、世界の様々な行事や生活の様子などが動画で紹介されており、外国の伝統や文化を紹介したり、「Our World」として多様な言語に触れたりし、外国への関心を高める工夫が随所になされている。

5年生巻頭では3・4年生の活動の振り返りが設定されるとともに、巻末には1年間の学習内容を表現ごとに振り返ることができるなどの工夫が見られる。目標や学習内容を家庭と共有できるよう、各学年のCAN-DOリストが巻末に付けられ工夫されている。ただ、学年ごとに別冊で付属されているWord Bookが、学年による内容の違いはあまりみられない。

### ■三省堂「CROWN Jr.」

「HOP」・「STEP」・「JUMP」で構成された1ユニット（2～3単元ごと）ごとの学習計画が見開きで示され、複数単元にわたる学習の流れを見通すことができるよう工夫されている。また、学んだ表現を何度も使えるようなユニット構成や、特定の場面でよく使われる表現を集中的に学習するための工夫がなされている。一方で、別冊絵辞典My Dictionaryにおいて、CAN-DOリストが児童に提示されているが、教科書の紙面からは児童がその学習到達目標を意識しづらい構成になっている。

発表の場面では、「グループから学級全体」といったように、発表の聞き手を2段階とすることで子どもの心理的負担を少なくし、対話的・協働的な学び合いが円滑にできるような工夫が見られる。一方で、単元ごとの「Step-up」での言語活動では、コミュニケーションを行う必然性を児童が感じられるような工夫はなされているが、目的や場面、状況の設定が明確ではないものがある。

ユニットごとに「My Goal」を設定し、目的のために何をどのように伝えたいのかを考えさせる構成となっており、児童が生涯にわたって学ぶための主体的な態度を育成する上での工夫がみられる。また、「考えよう」や「さあ、本番！」では、ICT機器を自分自身の発表に生かす工夫が示され、その後の「JUMP Plus+」では、どんなことを友達と伝え合うと良いかの視点が示されるなど、個

別最適な学びと協働的な学びを展開するための工夫がなされている。

各単元で3種類のチャンツ (sound/word/phrase) を適宜繰り返す構成とするなど、単元はじめから聞く・話す言語活動を無理なく取り組めるよう工夫されている。また、聞いたり話したりする活動を踏まえ、語句や表現を読んだり書き写したりする活動が順を追ってできるよう工夫されており、[やり取り][発表]を各単元や複数単元ごとにできるように工夫されている。

「Hello World」において、世界の祭り、仕事、小学校などについて、外国語と日本語の両者を比較することを通じて児童が世界に目を向け、外国への関心を高めるよう工夫されている。

巻頭では既習事項を振り返る場面が設定され、巻末には1年間で何ができるようになったのか、自身で学びを振り返ることができるよう工夫されている。また、別冊「My Dictionary」では、ひとつの語に対し、複数の日本語から引くことができるなど、児童が使いたい英単語を調べやすい点が自学自習にも適しており、工夫されている。

### ■教育出版「ONE WORLD Smiles」

巻頭に年間の学習目標が、各単元導入時に学習到達目標が、単元末に振り返りがそれぞれ示されているが、それらの紙面上の位置がまちまちであるため、児童が本時のめあてや単元の学習計画を確認しづらく、主体的な学びにつなげにくい。また、動画の視聴やリスニングを通じて、新出表現についての理解を深める構成となっているが、複数単元ごとに既習事項を活用する言語活動の設定がなく、基礎的・基本的な知識・技能の習得への工夫が弱い。

単元初めの「Think」で自分の考えを整理することができるよう工夫がされているが、目的や場面、状況の設定が明確ではないものがある。また、「聞くこと」から始め、音声のみで聞く、口慣らしをして表現に慣れ親しみ、既習表現を使ってやり取りをし、最終活動で発表へと展開する構成になっているが、情報を整理しながら考えなどを形成し表現する活動における工夫が弱い。

両学年とも、年度当初に「あなたが英語でできるようになりたいこと」を記述する活動が設定され、児童が生涯にわたって継続して主体的に英語を学ぼうとする態度を育成する上での工夫となっている。また、デジタル教科書サイドバーの、録音・再生ボタンからはネイティブ音声にならって自分が話す音声を録音したり、再生したりすることができ、自分の言いたい表現を蓄積し、目標に向かって自己調整していけるよう、よく工夫されている。

聞いたり話したりする活動を踏まえ、語句や表現を書き写したり読んだりする活動が順を追って設定されているとともに、多くの単元において[やり取り]をした後、単元末に[発表]を設定しているなどの工夫がみられる。また、「Sounds and Letters」で音の認識を深めたり、「Review」で活字体や語句を読んだり書いたりできるよう工夫されている。「Let's Read/Write」では、スモールステップで読み書きの活動につなげることができ、工夫が見られる。

「Let's Look at the World」において、外国の学校の様子や外来語等について取り上げ、世界を身近に感じ、違いだけでなく共通点も感じられるように工夫がなされているとともに、言語や文化を通じた世界とのつながりに気付けるよう工夫されている。

巻頭の「Let's Start together!」「〇年生の英語の学習が始まるよ」で既習事項を振り返るとと

もに、1年間の学習目標を確認することができるよう工夫されている。別冊は無く、教科書後ろに見開き3ページ(6ページ)分の「My Word Bank」があるものの、語彙数が少なく活用ににくい。

### ■光村図書出版「Here We Go!」

新出表現等と既習事項を繰り返し活用する言語活動や複数単元での学習内容を踏まえた言語活動が設定されるなど、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得に向けた工夫がなされている。また、1年間の学習と関連付けた領域別目標や、単元末の学習到達目標だけでなく、そこに至るまでの段階的な学習到達目標も設定されている。さらに、単元末には自己評価による振り返りを書き溜めるなど、児童が年間を通して自己の成長を意識して主体的に学習できるよう、よく工夫されている。

「Let's try.」では単元で学習した表現を使って自分のことを伝え合う活動が設定されている。既習表現を使った活動が2学年間を通じて学期ごとに継続的・系統的に設定されているため、語句や表現の定着を図り、英語を活用する力の育成につながる工夫がなされている。また、新出表現だけでなく既習表現を使って伝えることができるように「Plus One」が設定され、児童が伝えたいことを整理しながら伝えられるよう工夫されている。

外国の小学生の1日の生活を取り上げ、自分との共通点や相違点を考える活動が複数用意されるなど、物事の捉え方や考え方は多様であることへの気づきを促す工夫が優れている。また、紙面の各コーナーから、音声や映像コンテンツに簡単にアクセスできる。さらに、「Phrase Hunt」をヒントに考えたことをグループで共有することで、協働的な学びに繋げやすく、よく工夫されている。

各単元の「Hop!」「STEP1」「STEP2」「Jump!」それぞれにおいて、言語活動を通して聞くことから話すこと、聞き慣れた表現を読んだり書いたりできるように、5つの領域別目標がバランスよく、かつ適切な時期に育成されるように工夫されている。また、既習表現に何度も触れられるような構成になっている。「Alphabet Time」で活字体の読み方・書き方・文字の形・名称と音の認識を学習し、「単語を読む」から「一文を書く」まで、2年間で段階的に学べるようになっており優れている。

「Let's watch and think.」「世界の友達」では、世界の小学生の1日を本人映像及び音声で紹介するなど、世界の生活や文化を知り多様な価値観に触れられる工夫がなされており、優れている。

巻末の「All About Me」では、学習の成果を一覧で見られるだけでなく、中学1年生の自己紹介に活用できたりし、小中接続の視点での工夫がある。また、Picture Dictionaryは各学年の学習に応じた内容が掲載されているうえ、教科書末尾に取り外し可能な形式で添付されており、自学自習においても、児童が言いたい語やこれまで学習してきた語を探しやすく優れている。

### ■新興出版社啓林館「Blue Sky elementary」

単元導入時に新出表現の意味や使い方を動画や音声、教科書のイラストなどから推測し、理解することができるようになっており、学期末には「REVIEW」として複数単元で既習表現を使って自分自身のことを表現する活動が設定されており、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができるよう工夫されている。一方で、「読むこと」「書くこと」においては、「Let's Read and Write」のページがユニットの最後に設定されているため、単元内での活用がしにくい構成となっている。

また、日本語が多く記載され、言語材料の理解を深める工夫が少ない。

発表単元では、発表の目的や仕方など目標とする発表のあり様が明示されるとともに、発表のためにどのような工夫をしているのかを、動画から見つける活動が設定されており、工夫することへの意識づけができるよう配慮されている。一方で、単元で聞いたり話したりした表現を書き写す活動では、5年生と6年生で分量や難易度の軽重がつけられすぎておりバランスが偏っている。

相手意識を働かせた伝え方や聞き方を考える場面が Tips として設定され、相手や他者の理解への配慮を促している。また、既習事項を「実際のどんな場面で使いたいか」といった振返りが設定されており、実生活と結び付けて活用しようとする態度を育成する上での工夫がなされている。

各単元を Step 1. 2. 3 でスモールステップにし、それぞれの中で聞く活動と話す活動を繰り返し、単元末の言語活動につながるよう工夫されている。また、聞いたり話したりする活動を踏まえ、語句や表現を書き写したり読んだりする活動が順を追って設定されている。さらに、「読むこと」と「書くこと」をセットにし、段階的に文字と音との関係を学ぶことができるよう配慮されている。

日本の場所やものなどの魅力をよくとらえた写真等で例示するなど、日本文化の豊かさに気付く工夫がなされている。特に6年生では、外国の人へ日本の魅力を紹介するなど、日本文化等について児童が考察できるような題材が設定されている。

SDGs コラムなど社会科と関連付けた学習や、表やグラフを読んだり作成したりするなど算数科付けた学習、オリジナルランチメニューを考える家庭科の学習など単元の中に他教科等との関連要素が複数設定されており、工夫されている。巻末「Word List」や「会話を楽しむフレーズ集」で児童自身が自分の話したいことに合わせて自学自習ができるように工夫されているものの、単語が四線に書かれていないため、書き写しにくい。

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

外国語

観点別・視点別評価

「◎」優れている 「○」標準的 「△」やや劣る

選定の観点		選定の視点		東京書籍	開隆堂	三省堂	教育出版	光村図書	啓林館
1	基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。	1	言語材料の配列・系統性の工夫	◎	◎	○	△	◎	○
		2	単元終末に向けた学習計画やCAN-DO(学習到達目標)の明示	○	○	△	△	◎	○
		3	言語材料の理解を深める工夫	◎	○	○	△	○	△
2	適切な場面設定のもと、既習事項等を活用しながら、言語活動を行うための思考力・判断力・表現力等を育成する工夫・配慮がされていること。	1	コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の明確化・必然性の工夫	◎	○	△	△	◎	○
		2	既習事項等を活用し、その場で質問したり答えたりする言語活動[やり取り]の工夫	○	△	○	○	○	○
		3	情報を整理しながら考えなどを形成し、表現する活動[発表]の工夫	◎	◎	○	△	○	○
		4	語句・表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりする活動の工夫	○	○	△	△	○	△
3	相手や他者の理解に配慮するなど、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う工夫がされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮がされていること。	1	相手意識を働かせたり、物事の捉え方や考え方の多様性に気付いたりする工夫	◎	○	○	○	◎	○
		2	児童が興味をもち、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながる工夫	○	○	○	○	○	○
		3	デジタル教科書を含めたICT機器を活用するなど、個別最適な学びと協働的な学びを展開するための工夫	◎	○	○	◎	◎	○
4	5領域別の目標と学習内容を効果的に関連付ける工夫がされていること。	1	練習と言語活動の関連付けの工夫	○	○	○	○	○	○
		2	言語材料を言語活動と効果的に関連付け、活用する技能を身に付ける工夫	○	○	○	○	○	○
		3	活字体の読み方・書き方の指導と、文字と音の認識を深める工夫	◎	○	○	○	◎	○
5	外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、日本語と日本文化の豊かさ気付く教材や活動が適切に取り上げられていること。	1	外国語の背景にある文化への理解を深める工夫	◎	○	○	○	◎	○
		2	日本や地域の良さを気付くことができる工夫	○	○	○	○	○	○
6	単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの観点から他教科等との関連、また他校種等との接続について配慮がされていること。	1	単元構成の系統性・発展性	○	○	○	○	○	○
		2	他教科等との連携や現代的な諸課題との関連	○	○	○	○	○	○
		3	外国語活動からの系統性や中学校外国語科への発展性	○	○	○	○	○	○
		4	自学自習や校種間連携に役立つ語彙・表現の一覧等の補助資料の充実	◎	○	○	△	◎	△
7	基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。	1	人権教育の推進	○	○	○	○	○	○
		2	道徳教育の推進	○	○	○	○	○	○
8	表記や表現について、文章や挿絵、写真等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。	1	文字や挿絵、写真等の適切さ、正確性、使いやすさの工夫	○	○	○	○	○	○
		2	ユニバーサルデザインの視点	○	○	○	○	○	○
		3	装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫	○	○	○	○	○	○
		4	用紙、インク等の環境面の配慮	○	○	○	○	○	○

【外国語】観点別資料

【選定の観点1】

基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

発行者名					
2 東書書籍	9 開隆堂	15 三省堂	17 教育出版	38 光村図書	61 啓林館
<p>○音声・動画の視聴後に設定されたリスニングにより各単元での新出表現の理解を深めたり、随所に設定された「Small Talk」により既習表現をふり返る機会が保障されたりと、基礎的・基本的な知識・技能の習得が図りやすく、優れている。</p> <p>○各単元において学習到達目標が明示されるとともに、別冊にはできるようになったことを振り返る「CAN-DOの樹」が設定されており、児童が見通しをもちながら学習への意欲を高める配慮がなされている。</p> <p>○単語を書き写す際に便利なPicture dictionaryが別冊として用意されており活用しやすい。また、Picture dictionaryの活用にあたっては、参照するページが複数明示されており、主体的に知識・技能の確実な習得を図るための工夫・配慮が優れている。</p>	<p>○単元終末の活動例がアニメーションで単元はじめに紹介されており、学習の流れがイメージしやすい。ゴールまでの道筋が一目で分かる単元チャートもあり、学習の見通しが持てるようよく工夫されている。</p> <p>○巻末には、ユニットごとのCAN-DOリストがあり、何ができるようになったのかが児童自身で分析できるよう配慮されている。</p> <p>○各単元の新出表現について、音声・動画の視聴後に、ゲームやリスニング、チャンツを通じて理解を深めることができるよう工夫されている。また、単語を書き写す際に便利なPicture dictionaryが別冊として用意されており活用しやすい。</p>	<p>○「HOP」・「STEP」・「JUMP」で構成された1ユニット（2～3単元ごと）ごとに締めくくりの言語活動場面を設定し、既習の言語材料を活用したやり取りや発表を行う構成になっており工夫されている。</p> <p>○別冊絵辞典 My Dictionaryにおいて、CAN-DOリストが児童に提示されているが、教科書の紙面からは児童がその学習到達目標を意識しづらい構成になっている。</p> <p>○ユニットごとの学習計画が見開きで示されており、複数単元にわたる学習の流れを見通すことができるよう工夫されている。また、学んだ表現を何度も使えるようなユニット構成や、特定の場面でよく使われる表現を集中的に学習するための工夫がなされている。</p>	<p>○動画の視聴やリスニングを通じて、新出表現についての理解を深める構成となっているが、複数単元ごとに既習事項を活用する言語活動の設定がなく、基礎的・基本的な知識・技能の習得への工夫が弱い。</p> <p>○巻頭に年間の学習目標が、各単元導入時に学習到達目標が、単元末に振り返りがそれぞれ示されているが、それらの紙面上の位置がまちまちであるため、児童が本時のめあてや単元の学習計画を確認しづらく、主体的な学びにつなげにくい。</p> <p>○「Activity」で言語活動を積み重ねて単元終末の言語活動「Final Activity」につなげられるような工夫が見られるが、「Final Activity」と1つ前の「Activity」の内容に大差のない単元も見られる。</p>	<p>○紙面やアニメーション視聴等から児童が新出表現の意味や使用場面を類推した後、Picture Dictionaryを活用しながら、リスニングで理解を深める構成となっている。また、新出表現等に加え、既習事項を繰り返し活用する言語活動や複数単元での学習内容を踏まえた言語活動が設定されるなど、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得に向けた工夫がなされ優れている。</p> <p>○1年間の学習と関連付けた領域別目標や、単元末の学習到達目標だけでなく、そこに至るまでの段階的な学習到達目標も設定されている。また、単元末には自己評価による振り返りを「All About Me」として書き溜めるなど、児童が年間を通して自己の成長を意識して主体的に学習できるよう、よく工夫されている。</p> <p>○既習表現を使う必然性を感じながらやり取りをすることができるようなSmall Talkが設定されるなど、工夫されている。</p>	<p>○単元導入時に新出表現の意味や使い方を動画や音声、教科書のイラストなどから推測し、理解することができるように工夫されている。また学期末には「REVIEW」として複数単元で既習表現を使って自分自身のことを表現できるよう活動が設定されており、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができるよう工夫されている。</p> <p>○単元導入時に学習到達目標が「GOAL」として示されるとともに、単元末には学習到達目標に対する振り返りと「学習した英語をどんな場面で使いたいか」を考える「Look Back」が設定されるなど、工夫されている。</p> <p>○「読むこと」「書くこと」においては、「Let's Read and Write」のページがユニットの最後に設定されているため、単元内での活用がしにくい構成となっている。また、日本語が多く記載され、言語材料の理解を深める工夫が少ない。</p>

【選定の観点2】

適切な場面設定のもと、既習事項等を活用しながら、言語活動を行うための思考力・判断力・表現力等を育成する工夫・配慮がされていること。

発行者名					
2 東書書籍	9 開隆堂	15 三省堂	17 教育出版	38 光村図書	61 啓林館
<p>○単元導入時に示された学習到達目標や紙面構成から、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等が明確に設定され、児童が見通しをもちやすく、優れている。</p> <p>○既習・新出表現等を活用し、その場でやり取りをする活動が設定され、学期毎の「Check Your Steps」では、明確な目的・場面、状況設定のうえ、既習事項を活用した言語活動を行う工夫がされている。</p> <p>○発表前に自分が工夫したいことを考えて整理したり、発表の順番や語順を意識したりできるようになっている。また、付け足しに使える表現例や反応例等を登場人物のイラストと共に英語表記で示してあるため、聞き手側の例なのか話し手側の例なのか分かりやすく、思考して活用でき、児童が情報を整理して発表するための工夫が優れている。</p> <p>○語句や表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりする活動が、思考しやすいよう例示の文とともに取り入れられ、4線を意識して書けるよう工夫されている。</p>	<p>○単元導入時に示された学習到達目標や紙面構成から、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等が想像しやすくなっている。</p> <p>○既習・新出表現等を使い、その場でやり取りする活動が設定されているが、すでに完成している発表原稿が多く示されているため、思考しながら自分の伝えたいことを表現する力を育むための工夫が不十分である。</p> <p>○発表の目的が明示され、何のために工夫をするのかが把握しやすい。また、発表内容を整理した後に発表する流れになっており、何をどの順番で発表するのか思考できるようよく工夫されている。</p> <p>○「Let's Listen and Read」と「Let's Write」として、読んだり書き写したりするコーナーが各単元に設定されている。音声で十分に慣れ親しんだ表現を読んだり書いたりすることが小学校英語では大切であるが、音声で十分に慣れ親しむ前の時間にも設定されている。</p>	<p>○単元ごとの「Step-up」に示された言語活動では、コミュニケーションを行う必然性を児童が感じられるような工夫はなされているが、目的や場面、状況の設定が明確ではないものがある。</p> <p>○モデルのやり取りを聞いてイメージをつかみ、会話を続けるための投げかけや返答を意識するなど、やり取りの活動を中心に構成されており、工夫されている。</p> <p>○「グループから学級全体」といったように、発表の聞き手を2段階構えとすることで子どもの心理的負担を少なくし、対話的・協働的な学び合いが円滑にできるような工夫が見られる。</p> <p>○読む活動では、文字を追いつながら英語を聞いたり読んだりする工夫や、児童になじみのある物語を楽しみながら意味を推測するための工夫が見られる。書く活動においては、音声で十分に慣れ親しんだ表現の中から書き写す活動が設定されているが、語順を意識する活動が設定されておらず、思考しながら読んだり書いたりする力を育む工夫が弱い。</p>	<p>○既習表現や新出表現を使ってやり取りをするために単元初めの「Think」で自分の考えを整理することができるよう工夫がされているが、目的や場面、状況の設定が明確ではないものがある。</p> <p>○「Final Activity」では、「読む」「書く」「聞く」「話す(やり取り・発表)」の活動を包括しており、活動の順序を臨機応変に変えることができる構成になっており、言語活動に取り組みやすい。</p> <p>○「聞くこと」を通してインプットから始め、音声のみで聞く、口慣らしをして表現に慣れ親しみ、既習表現を使ってやり取りをし、最終活動で発表というアウトプットへと展開する構成になっているが、情報を整理しながら考えなどを形成し表現する活動における工夫が弱い。</p> <p>○音声で慣れ親しんだ語句や表現を読んだり、他教科等でなじみのある物語を取り上げ、聞いて推測しながら読んだりする活動に工夫がみられる一方、語順の違いに気付く活動に工夫が見られない。</p>	<p>○児童が伝えたい思いを持続させながら学習を深められるよう、単元導入時の紙面は単元末でのコミュニケーション場面や状況等を想像しやすい構成となっている。単元終末の活動では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などが明確に設定されており、優れている。</p> <p>○「Let's try.」では単元で学習した表現を使って自分のことを伝え合う活動が設定されている。既習表現を使つての活動が2学年間を通じて学期ごとに継続的・系統的に設定されているため、語句や表現の定着を図り、生きて働く力として英語を活用する力の育成につながる工夫がなされている。</p> <p>○新出表現だけでなく既習表現を使って伝えることができるように「Plus One」が設定され、児童が伝えたいことを整理しながら伝えられるよう工夫されている。</p> <p>○十分に音声で慣れ親しんだ表現を丁寧に書き写すことができるよう紙面に四線が設定されており、言いたいことをもとにして書く力を育む工夫がなされている。</p>	<p>○単元導入時の紙面では、絵や写真を参考にしてコミュニケーションの場面や状況等について説明したり聞く視点を持たせたりする工夫がなされている。</p> <p>○新出表現等とあわせて、既習事項を活用しながらその場でやり取りをする活動が設定され、児童が考えや気持ちなどを整理して発表することができるなど、情報を整理しながら考えを形成する力の育成が図れるよう工夫されている。</p> <p>○発表単元では、発表の目的や仕方など目標とする発表のあり様が明示されるとともに、発表のためにどのような工夫をしているのかを、動画から見つける活動が設定されており、工夫することへの意識づけができるよう配慮されている。</p> <p>○物語を聞きながら内容を推測したり、文字を追って読んだりする活動ができるよう工夫されているが、単元で聞いたり話したりした表現を書き写す活動では、5年生と6年生で分量や難易度の軽重がつけられすぎておりバランスが偏っている。</p>

【選定の観点3】

相手や他者の理解に配慮するなど、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う工夫がされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。

発行者名					
2 東書書籍	9 開隆堂	15 三省堂	17 教育出版	38 光村図書	61 啓林館
<p>○「Over the Horizon」では、外国の文化等に関する記述が充実し、外国と自分の生活とを比較する場面が設けられるなど、物事の捉え方や考え方の多様性に気付く工夫がなされ優れている。</p> <p>○単元ははじめの「Starting Out」の「Watch and Think」では、実写映像視聴で興味を掻き立てた後に、自分自身が伝えたいことを「Your Plan」として主体的に考え記入できる構造になっており工夫されている。</p> <p>○個別最適な学びとして、単元の目標となる「話すこと（やり取り／発表）」のウォームアップとして、教科書の登場人物との画面上での模擬会話をはじめ、多くの選択肢が用意されている。また、言語活動を行う際の準備に役立つ会話練習や、資料が豊富に用意されている。</p>	<p>○5年生では日本（自分の住む町）の素敵などころについて、6年生では世界（行きたい国や紹介したい国）について、考えたり友達と伝え合ったりする活動が設定されており、多様な捉え方や考え方に結びつく工夫がなされている。</p> <p>○「Let's Watch and Think」では、世界の同年代の子供たちの様子を動画視聴でき、興味が湧く工夫がある。また、それらの発話内容をその後の自分自身のやり取りや紹介に生かすことができるよう工夫されている。</p> <p>○ChantsやSongが単元ごとに充実しており、個別の学びができる工夫はされているが、言語活動を充実させるためのコンテンツが少ない。</p>	<p>○「JUMP」の「やり取り」や「発表」を行う場面では、相手意識を持って発表ややり取りができるような留意点が段階的に示されている。また、外国の文化等が取り上げられ、それぞれの国についての理解促進につなげる工夫がなされている。</p> <p>○ユニットごとに「My Goal」を設定し、目的のために何をどのように伝えたいのかを考えさせる構成となっており、児童が生涯にわたって継続して英語を学ぼうとする主体的な態度を育成する上での工夫がみられる。</p> <p>○「考えよう」や「さあ、本番！」では、個別最適な学びとしてICT機器を自分自身の発表に生かす工夫が示されている。また、その後の「JUMP Plus+」では、協働的な学びとしてどんなことを友だちと伝え合うと良いかの視点が示されるなど工夫されている。</p>	<p>○「Think」では、相手意識を働かせ、よりよい関わり合いを意識した言語活動が設定されている。また、外国の紹介を視聴後、どの国に行って何をしたいか考える活動があり、それぞれの国の様子を捉えたり良さを考えたりすることにつながっている。</p> <p>○両学年とも、年度当初に「あなたが英語でできるようになりたいこと」を記述する活動が設定され、児童が生涯にわたって継続して主体的に英語を学ぼうとする態度を育成する上での工夫となっている。</p> <p>○デジタル教科書サイドバーの、録音・再生ボタンからはネイティブ音声にならって自分が話す音声を録音したり、再生したりすることができ、自分の言いたい表現を蓄積し、目標に向かって自己調整していけるよう、よく工夫されている。</p>	<p>○外国の小学生の1日の生活を取り上げ、自分との共通点や相違点について考える活動が複数用意されるなど、物事の捉え方や考え方は多様であることへの気付きを促す工夫が優れている。</p> <p>○相手と話す際に使える相槌や会話を広げる時の例文等、児童が友だちとやりとりをする際に使えるような具体的な表現が記述されており、相手意識をもつことの大切さ、コミュニケーションの見方・考え方を働かせることについて、児童が主体的に、また具体的に考えられる設定がなされており、工夫されている。</p> <p>○紙面の各コーナーから、音声や映像コンテンツに簡単にアクセスできる。また、「Phrase Hunt」をヒントに考えたことをグループで共有することで、協働的な学びに繋げやすくよく工夫されている。</p>	<p>○相手意識を働かせた伝え方や聞き方を考える場面がTipsとして設定され、相手や他者の理解に配慮しながらやり取りをすることを促している。</p> <p>○2学年間を通じた全単元において、既習事項を「実際のどんな場面で使いたいのか」といった振返りが設定されており、児童が実生活と結び付けて活用しようとする態度を育成する上での工夫がなされている。</p> <p>○「Words and Phrases」や「Listen and Do」の活動では、デジタル教科書を活用してスピードを変えて聞いたり、聞き取りなかった所だけ再度視聴したりするなど個別最適な学びができる。また、それらで聞き取った表現を生かして協働的な学びとして「Activity」を行うなど、繋げやすく工夫されている。</p>

【選定の観点4】

5 領域別の目標と学習内容を効果的に関連付ける工夫がされていること。

発行者名					
2 東書書籍	9 開隆堂	15 三省堂	17 教育出版	38 光村図書	61 啓林館
<p>○学習した表現が実社会や実生活のどのような場面で活用できるかを考えられるよう工夫されており、単元を通して言語活動に取り組める構成になっている。5領域の目標がバランスよく、かつ適切な時期に育成されるよう工夫されている。</p> <p>○単元の前半から映像や音声などを通して、言語材料を聞く・内容を聞き取る・言語材料を使って表現するといった、継続的に言語活動に取り組む流れになっており、工夫されている。</p> <p>○聞いたり話したりする活動を踏まえ、語句や表現を書き写したり読んだりする活動が順を追って設定されている。また、4線の使い方や音に着目して習得させることが継続的に設定されており優れている。4線の第2線と第3線の間の幅を広げ、3線の色は青色に統一している。</p>	<p>○各単元とも、チャンツやゲーム、視聴教材で言語材料を聞いたり話したりする活動を繰り返し、その後の言語活動につながるように工夫されている。</p> <p>○聞いたり話したりする活動を踏まえ、語句や表現を書き写したり読んだりする活動が順を追って設定されているとともに、多くの単元において[やり取り]をした後、単元末に[発表]を設定している。</p> <p>○「Let's Write」では、繰り返し活字体の読み方・書き方についての認識を深めたり、単語の書き写しを通して、文字と音の認識を深めるために系統的に学習できるよう構成されている。4線の第2線と第3線の間の幅を広げ、3線の色は青色に統一している。</p>	<p>○各単元で3種類のチャンツ(sound/word/phrase)を適宜繰り返す構成とするなど、単元ははじめから聞く・話す言語活動を無理なく取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○1つのUnitは複数のLessonで構成されている。そのLessonの後にJumpがあり、複数単元のまとめができる。また、聞いたり話したりする活動を踏まえ、語句や表現を読んだり書き写したりする活動が順を追ってできるよう工夫されており、[やり取り][発表]を各単元や複数単元ごとに行えるように工夫されている。</p> <p>○「ABC Fun Box」で5年生当初から段階的に活字体の読み方・書き方を学習するとともに、「Sound Chant」を経て読むことにつなげるなど、文字と音の認識を深めるための系統的な展開の工夫がみられる。4線の第2線と第3線の間の幅をやや広げ、3線の色は青色に統一している。</p>	<p>○毎時間「Let's Listen」の活動を終えてから話す活動に取り組む流れとなっているなど、聞く活動が重視されている。チャンツで口慣れしながら、その後の言語活動につなげられるよう工夫されている。</p> <p>○聞いたり話したりする活動を踏まえ、語句や表現を書き写したり読んだりする活動が順を追って設定されているとともに、多くの単元において[やり取り]をした後、単元末に[発表]を設定しているなどの工夫がみられる。</p> <p>○「Sounds and Letters」で音の認識を深めたり、「Review」で活字体や語句を読んだり書いたりできるよう工夫されている。「Let's Read/Write」では、スモールステップで読み書きの活動につなげることができ、工夫が見られる。4線の上下幅の比率は4:5:4になっていて、3線の色は青色に統一している。</p>	<p>○「CAN-DO」と「重点化領域」が示されていることで、児童は学習の目標を明確に意識でき、単元終末の言語活動に向けて主体的に練習しやすい。</p> <p>○各単元の「Hop!」「STEP1」「STEP2」「Jump!」それぞれにおいて、言語活動を通して聞くことから話すこと、聞き慣れた表現を読んだり書いたりできるように、5つの領域別目標がバランスよく、かつ適切な時期に育成されるように工夫されている。また、どの単元でも、「Let's watch」「Let's listen」などで既習表現に何度も触れられるような構成になっており工夫されている。</p> <p>○「Alphabet Time」で活字体の読み方・書き方・文字の形・名称と音の認識を指導するよう設定されている。「単語を読む」から「一文を書く」まで、2年間で少しずつ段階的に学べるようになっており優れている。4線の第2線と第3線の間の幅をやや広げ、3線の色は青色に統一している。</p>	<p>○各単元をStep1.2.3でスモールステップにし、それぞれの中で聞く活動と話す活動を繰り返し、単元末の言語活動につながるよう工夫されている。</p> <p>○聞いたり話したりする活動を踏まえ、語句や表現を書き写したり読んだりする活動が順を追って設定されている。また、「読むこと」と「書くこと」をセットにし、段階的に文字と音との関係を学ぶことができるよう配慮されている。</p> <p>○「Let's Read and Write」で活字体の読み方・書き方を学んだ後、単語の書き写しを経て音の認識を深める学習をするよう系統が考えられている。「Let's Read」では英語を聞きながら読む学習ができるよう工夫されている。4線の上下幅の比率は5:6:5になっていて、3線の色は青色に統一している。</p>

【選定の観点5】

外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、日本語と日本文化の豊かさに気付く教材や活動が適切に取り上げられていること。

発行者名					
2 東書書籍	9 開隆堂	15 三省堂	17 教育出版	38 光村図書	61 啓林館
<p>○ Over the Horizon での「文化探検」「世界探検」「日本探検」「ことば探検」「物語探検」という多様な切り口で外国と日本の文化や言語に対する理解を深めることができる工夫が特に優れている。また、「フカボリ！」では、関連する話題から児童の視野を広げ、探究心をくすぐる情報が提示されている。</p> <p>○「日本探検」では、外国出身者が日本の伝統工芸や文化などの魅力を語る形をとることで、日本の魅力を見つめなおす契機とするなど工夫されている。「Digital Map」においては、「場所・建物」「特産品」などを写真やイラストとともに掲載することで、日本のよさを知り、各都道府県の名物などの紹介や行きたい国の紹介で活用できるよう工夫されている。</p>	<p>○単元の中や「Around the World」において、世界の様々な行事や生活の様子などが動画で紹介されており、外国の伝統や文化を紹介したり、「Our World」として多様な言語に触れたりし、外国への関心を高める工夫が随所になされている。</p> <p>○各単元末のStory Time の写真に都道府県をあえて示し、日本の各地における文化の豊かさを意識することにつなげたり自分の町を紹介したり、日本各地の名所等について考察を深めたりする活動等が設定されている。</p>	<p>○「Hello World」において、世界の祭り、仕事、小学校などについて、外国語と日本語の両者を比較することを通じて児童が世界に目を向け、外国への関心を高めることにつながるよう工夫されている。</p> <p>○日本文化を伝える活動により、世界に発信できる日本の文化や情報に目を向ける工夫がなされているとともに、外国の文化を知る活動が設定されている。また、「ことばのふしぎ」で日本語や外国語の言葉への興味や関心を高める活動も設けられている。</p>	<p>○「世界の名所・名物マップ」は、行事、食べ物、事前や動植物が描かれており、単元を超えて児童が伝え合う際の言語材料と地理的な場所も含めた提示の工夫がなされている。「Let's Look at the World」において、外国の学校の様子や外来語等について取り上げ、世界を身近に感じ、違いだけでなく共通点も感じられるように工夫がなされているとともに、言語や文化を通じた世界とのつながりに気付くよう工夫されている。</p> <p>○「外国を友達に紹介する」活動においては、日本地図を活用して名物・名所等を掲載するなど、日本の国土の豊かさについての気付きを促している。</p>	<p>○世界の多様性に気付く「Let's watch and think.」「世界の友達」においては、同世代である世界の小学生の1日を本人映像及び音声で紹介するなど、世界の生活や文化を知り、多様な価値観に触れられる工夫がなされており、優れている。</p> <p>○「言葉について考えよう」において、日本語と英語による文構造の違いや、同じ意味を表す語の多少など言語の特殊性への気付きを促す機会が設けられ、日本語の良さに気付くよう工夫されている。</p>	<p>○単元ごとの「Friends around the World」や「Did you know?」などにおいて、世界の文化や習慣、SDGsの取組などが紹介されており、学んだ内容に関連する外国の言語的・文化的な内容への気付きを促す工夫がみられる。また、各単元には世界各地の児童が自分のことについて話をしているという視聴教材もあり、文化や生活だけでなく、世界の英語に触れることもできる点に特に工夫が見られる。</p> <p>○日本の場所やものなどの魅力をよくとらえた写真等で例示するなど、日本文化の豊かさに気付く工夫がなされている。特に6年生では、外国の人へ日本の魅力を紹介するなど、日本文化等について児童が考察できるような題材が設定されている。</p>

【選定の観点6】

単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等との関連、また他校種等との接続について配慮されていること。

発行者名					
2 東書書籍	9 開隆堂	15 三省堂	17 教育出版	38 光村図書	61 啓林館
<p>○学年別でのテーマ設定（5年生「日本でつながるわたしたち」、6年生「世界とつながるわたしたち」）がなされ、自分→地域→日本⇒世界へ視野を広げた上で、最後は自分自身を見つめ直すという単元構成の工夫がみられる。</p> <p>○外国の自然環境、SDG s など多分野にわたる題材を取り上げ、他教科等との関連が図られている。</p> <p>○中学年の内容を的確に受け止められるような5年生冒頭や別冊辞書、中学校への学習へと効果的につなげるための6年生巻末ページの設定など、円滑な接続への配慮がみられる。</p> <p>○別冊「My Picture Dictionary」では、児童が本当に伝えたい内容とそのための表現を探せるように活動やジャンルが関連づけられているうえ、自分で調べたマイ単語を記入できるなど、児童の自学自習や、中学校以降での復習に活用できるよう、よく工夫されている。</p>	<p>○5年生巻頭では3・4年生の活動の振り返りが設定されるとともに、巻末には1年間の学習内容を表現ごとに振り返ることができるなどの工夫が見られる。</p> <p>○他教科等の学習と関連する単元にはアイコンが設定されるなど、学習にあたって教科横断的な視点をもちやすい工夫がなされている。</p> <p>○中学校とのつながりを踏まえ、別冊のWord book では、重要語を設定して明示し、中学校での学びを意識した学習に取り組めるよう配慮されている。</p> <p>○目標や学習内容を家庭と共有できるよう、各学年のCAN-DOリストが巻末に付けられ工夫されている。ただ、学年ごとに別冊で付属されているWord Book が、学年による内容の違いはあまりみられない。</p>	<p>○巻頭では既習事項を振り返る場面が設定されており、巻末には1年間で何ができるようになったのか、自身で学びを振り返ることができるよう工夫されている。</p> <p>○他教科での学びを生かす視点、他教科での学びを深める視点、さらには今日的な課題であるSDG s への理解を深める視点など、多様な視点を生かした題材が設定されている。</p> <p>○中学校で行われることの多い、プロジェクト型(課題解決型)の言語活動につながるよう、「JUMP」の手順を工夫するなど、中学校との接続に留意されている。</p> <p>○別冊「My Dictionary」では、ひとつの語に対し、複数の日本語から引くことができるなど、児童が使いたい英単語を調べやすい点が自学自習にも適しており、工夫されている。</p>	<p>○巻頭の「Let's Start together!」「○年生の英語の学習が始まるよ」で既習事項を振り返るとともに、1年間の学習目標を確認することができるよう工夫されている。</p> <p>○児童になじみの深い読み物教材の活用や防災等の現代的な諸課題との関連やプログラミング教育との関連が図られている。</p> <p>○小学校で学習したことを冊子「My Book」の作成を通して振り返り、中学校でも自己紹介に活用できるよう小中接続の視点がみられる。</p> <p>○別冊は無く、教科書後ろに見開き3ページ(6ページ)分の「My Word Bank」があるものの、語彙数が少なく活用しにくい。</p>	<p>○単元構成が、自分・身近な人・地域・日本・世界・将来へと発展していく流れとなっており、児童が学習の見通しをもって言語活動を伴いながら学習に取り組みやすく、工夫されている。</p> <p>○国語や他教科等と関連付け、日本語と英語の言葉の違いへの気づきを促すとともに、将来の職業選択、自分らしい生き方の実現に資するようキャリア教育及び防災教育の視点にも配慮されている。</p> <p>○巻末の「All About Me」では、学習の成果を一覧で見られるだけでなく、中学1年生の自己紹介に活用できたりし、小中接続の視点での工夫がある。</p> <p>○Picture Dictionary は各学年の学習に応じた内容が掲載されているうえ、教科書末尾に取り外し可能な形式で添付されており、自学自習においても、児童が言いたい語やこれまで学習してきた語を探しやすく優れている。</p>	<p>○5年生では主に身近なことや知っていることを扱い、6年生では身の回りのことをもう少し詳しく調べたり、身の回りから少し離れたことに気付いたりしながら学習するといった単元構成となっており、内容を系統立てる工夫がなされている。</p> <p>○SDG s コラムなど社会科と関連付けた学習や、表やグラフを読んだり作成したりするなど算数科付けた学習、オリジナルランチメニューを考える家庭科の学習など単元の中に他教科等との関連要素が複数設定されており、工夫されている。</p> <p>○外国語活動の学びを生かした「Pre Unit」や、中学校生活に関する単元など他校種との連携が意識されている。</p> <p>○巻末「Word List」や「会話を楽しむフレーズ集」で児童自身が自分の話したいことに合わせて自学自習ができるように工夫されているものの、単語が四線に書かれていないため、書き写しにくい。</p>

【選定の観点7】

基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

発行者名

2 東書書籍	9 開隆堂	15 三省堂	17 教育出版	38 光村図書	61 啓林館
<p>○「Over The Horizon」で外国の文化や暮らし、日本で働く海外の人たちの活躍を取り扱うなど、人権尊重、国際理解、異文化尊重等の心情と態度を育むよう配慮されている。</p> <p>○動画では様々な国や人種及び題材を取り上げ、紙面やイラストでは障がいの有無に関わらず楽しく活動するイメージが持たせられるよう配慮されているほか、登場人物には性別や服装、出身国や身体的な特徴などに偏りが無いよう工夫されている。</p>	<p>○各単元の題材に関連した世界各国の文化や、生活を紹介し、世界にはさまざまな価値観があることを知り、国際理解、異文化尊重の心情と態度を育むよう工夫されている。</p> <p>○ブラインドサッカーや車いすバスケットボールを扱うなど、人権を尊重し違いを認め合い、自他を尊重する態度を養うことができるコンテンツの工夫がなされている。</p>	<p>○多様な価値観を受け入れ、いじめや差別のない社会への意識や人権意識を高めるため、人種の異なるメインキャラクターの生活を話題にしている。また、「Hello, World!」では、世界の珍しいスポーツや職業等が紹介されており、異文化理解を促す題材が取り上げられている。</p> <p>○学習者と同学年の人種の異なるメインキャラクターの生活を話題としながら、多様な価値観を受け入れ、いじめや差別のない社会への意識や人権意識をたかめることができるよう、配慮されている。</p>	<p>○社会の多様性をふまえ、人権尊重の視点から、イラストや表現に配慮している。海外に暮らす同年代のリアルな声や学校生活などを通して、自分たちの学校生活との違いや共通点に気付くことで、多様性を尊重でき、国際理解の態度を養う工夫がされている。</p> <p>○「自分のできることを発表する」「自己紹介する」「将来就きたい職業を発表する」等の活動を通して個人の価値尊重と創造性、自主・自立の精神と勤労を重んじる態度の育成を目指すよう配慮されている。</p>	<p>○登場するキャラクターは、いくつかの国出身であったり、車椅子の人物がいたり、またそのキャラクターたちが異なる文化的・人種的背景をもった人たちとの交流を通して成長していく姿が描かれており、人権尊重、国際理解、異文化尊重等の心情と態度を育むよう配慮されている。</p> <p>○世界12か国の子どもたちの生活の様子を継続的に取り上げるなどし、他国への関心を高めその生活や文化を尊重する異文化理解を図るとともに、国際親善の精神の涵養につながる工夫がなされている。</p>	<p>○登場人物の人種・性別・身体的特徴などは、偏らないよう配慮され、服装や持ち物の色、社会的な役割に対して性別による固定概念を植え付けないよう配慮されている。また、「Did you know?」などで異文化の話題を取り上げたり、また様々な人種を登場させたりして、児童が国際理解・異文化理解を深められるようになっている。</p> <p>○困っている人を助ける場面など、相手に配慮して会話する場面が設けられ、思いやりの心が育まれるよう配慮されている。</p>

【選定の観点8】

表記や表現について、文章や挿絵、写真等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名					
2 東書書籍	9 開隆堂	15 三省堂	17 教育出版	38 光村図書	61 啓林館
<p>○A4版で児童が親しみやすい豊富な写真・イラスト等を効果的に使用するとともに、4線もアルファベットをバランス良く書けるように工夫されている。アルファベット指導では左効き児童にも見やすいモデル字の配置など、配慮されている。</p> <p>○英語・日本語ともに研究者により検証された、UDフォントを採用している。</p> <p>○再生紙や植物油インキを使用し、造本も堅牢である。軽量の紙を使用し、児童の負担に配慮している。</p>	<p>○A4版でゆとりを持たせ、写真や書くスペースを確保するなど工夫が見られる。</p> <p>○日本語はUDフォント、英語はオリジナルの手書き書体を採用している。刺激を押さえた配色など随所にユニバーサルデザインの考え方が取り入れられ配慮されている。色覚特性の専門家による校閲がなされたCUDの視点からの児童への配慮がされている。</p> <p>○ゆとりある紙面、シンプルなレイアウトにまとめられ、改行は読みやすい位置でされるなど工夫がある。</p>	<p>○A4版で幅が広く、行間やイラスト等にゆとりがあるデザインとするなど、レイアウトの工夫が見られる。</p> <p>○配色だけでなく形等でも区別しやすいユニバーサルデザインを専門家の監修のもと配慮している。</p> <p>○造本は堅牢である。</p> <p>○地球環境に配慮した用紙と植物油インキを使用している。</p>	<p>○読みやすいUDフォントを使用している。</p> <p>○ユニバーサルデザインの観点に立って紙面構成、フォント、色覚の個人差にも配慮されている。</p> <p>○造本は堅牢である。</p> <p>○環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用している。</p>	<p>○A4版で大判イラストと写真を用い、学習しやすいようデザインされ、独自のフォントに対応した4線とするなど工夫が見られる。</p> <p>○図版上の文字表記の工夫等、全てのページで特別支援教育の専門家の監修を受けるなどの配慮とともに、日本語はUDフォント、英語はオリジナルの書体を採用している。一部の漢字にはふりがなをつけている。</p> <p>○造本は堅牢で、薄い紙を開発して使用しており、児童の負担に配慮している。</p> <p>○環境に配慮した紙とエコマーク認定の植物油インキを使用している。</p>	<p>○A4版でゆとりを持たせ、写真や書くスペースを確保するなど工夫が見られる。</p> <p>○配色やデザインについては、CUDへの配慮がされている。日本語はUDデジタル教科書体、英語はUDデジタル教科書体欧文、英語の4線はUDデジタル教科書体学習欧文を採用している。</p> <p>○再生紙と植物油インキを使用し、環境への配慮がされている。</p>

※UDフォント：ユニバーサル・デザインフォント、CUD：カラー・ユニバーサル・デザイン